



わかば

2021. 9. 18

(令和3年) 第21-12号

文責 校長 保谷 ほうや つとむ 力

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

学校運営に関するお問合せ先：pjs@shokookai.org

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 一人一人の笑顔輝く学校づくり～期待登校・満足下校～

創立50周年に因んで



ポートランド日本人学校(正式名称 ポートランド補習授業校)は今年で創立50年を迎えます。

このような記念すべき年であるにもかかわらず、コロナの世界的な感染拡大により、やむを得ず対面授業を取りやめ、オンラインによる学習を行っております。

本来ですと50周年記念ともなれば、大きな集会や式典を企画し、本校設立にご尽力を頂きました多くの方々を御来賓としてお招きし、その歴史や伝統について語り合い継承していくのが習わしです。しかしながら、こうした状況下では式典の開催どころか、人が集まることすらできません。

そこで、今回の「わかば12号」より、50周年に因んだお話を少しずつ取りあげることで、本校の歴史についてご理解いただき、在籍する子供たちと共に周年のお祝いをしたいと考えます。

教育委員会の中にある「50周年プロジェクトチーム」では、昨年より毎月行われる教育委員会の中で、主要な議題として話し合いを進めて参りました。当初は12月18日の学芸会を「創立50周年記

念 ポートランド日本人学校学芸会」と名を打って、この場をお借りして50周年のお祝いや記念品のお披露目を行っていく計画でした。しかし、現状の中では、こうした取り組みも現実的ではなく、どのような形で本年度中に実施することがよいのかを教育委員会を中心に現在模索しております。

過去の周年行事への取り組みを見ても、教育委員会(日本人商工会)から記念誌や立て看板の制作などの記念品の授受が行われました。

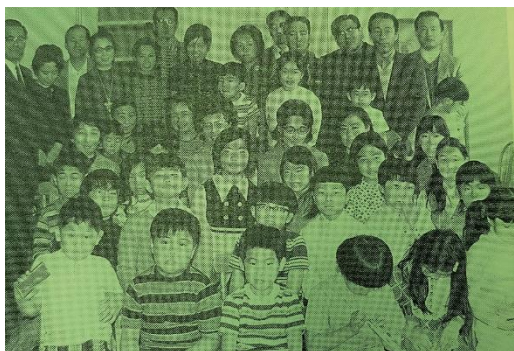
今年の50周年記念はどのような記念品が用意されているか気になるころですね。教育委員会50周年プロジェクトチームの皆さんが日本国内との連絡調整を何度も繰り返し、やっとの思いで手に入れたものが現在学校事務局に保管されています。品物についてはイベント当日まで内緒です。お披露目の日を楽しみにしていきましょう。

さて、1971年8月「児童数24名、教員1名」とは、どこの学校でしょうか。そうです、今を遡ること50年前、日本人学校の前身が多くの方々の願いのもと、ここポートランドに産声をあげました。

本号より、本校の歴史について「わかば」で取りあげ、児童・生徒、保護者の皆様と共にお祝いしたいと思います。

【日本人学校沿革略史①】

1. 創立の頃



第1回卒業式

本校は1971年8月に創立されました。当時の在ポートランド総領事館越智総領事より、商社会(後の商工会)副会長脇衛氏に、当地に日本企業派遣駐在員の子弟教育の機関を設けてはというお話があり、種々の課題を検討した後、開校の運びとなりました。

校舎は、ポートランド南東地区にある教会施設を借用、教師は領事が子弟教育のために日本より帯同した家庭教師の大山先生を中心に、商社会員の御婦人方を陣容に、そして生徒は小学生のみ24名で記念すべき第一歩を踏み出しました。

開校と前後して、保護者による学校運営機関「若葉会」がポートランド日本人商社会(後の商工会)附属のものとして設立され、初代校長であり初代若葉会会長(後の教育委員長)脇衛氏の下、手探りながらスタートが切られました。

その後、学校としての形は急速に整っていきました。毎週土曜の授業、そして朝礼、開校初年度末1973年3月には第一回目の卒業式にて卒業生一名を送り出しました。そして、この年の年末には、脇校長宅に子供たちを招き、初めてのクリスマスパーティーが開かれました。このパーティーこそ、他の補習授業校にはない学芸会の前身となった行事でした。

翌年の1974年6月には、ポートランド郊外、ブルーレイクで第一回運動会が開催され、以後長い間同地で運動会をもつことが恒例となりました。当時は運動会といっても、競技半ばピクニック半ばという様子でし

た。この日ばかりはと、ポートランド中の日本人が集まった、思いで深い一日となっていたようです。

当初、小学部のみでスタートした学校でしたが、1974の4月には中等部が設けられました。

2. 高等部が設けられた頃まで

この当時までの日本人学校をご存じの方にお話を伺うと、当時の学校の様子はまさに「寺子屋」に等しいものであったと一様に回想されます。小さな部屋をさらに間仕切りしていくつかの教室をつくらなければならない苦勞がありました。教材、教具も決して潤沢に整備されていた訳ではありませんでした。しかし、休み時間ともなれば、上級生も下級生も分け隔てなく遊んでおりました。また、保護者総出で学校行事に取り組んでくださるなど、「寺子屋」の言葉に似あう家庭教育的な手作り感覚のある学校でした。ここでは、学ぶ者と教える者、そしてその両者を支える者との間に、家庭的な緊密な結びつきが存在していたように思います。

授業は文部省の助成事業の一貫として給付される教科書に基づいて行われるのが概ねでしたが、先生方の独創的な構成によって展開されることもしばしばありました。同窓生からは異口同音に、この時代のほのぼのとした先生方との触れ合いの中で行われた授業を懐かしむ声が聞かれます。

4名の高等部新入生を迎えて、本校に高等部が設けられたのが、1981年4月のことでした。

創立より10年を経えておりましたが、新設高等部の生徒を加えても、50名余りの小さな学校でした。高等部新設に併せて、学校運営に規矩をという要請から、以前より審議されていた「ポートランド日本人学校規約」「ポートランド商社会教育委員会規則」「ポートランド学校教職員服務規則」の制定を行いました。1981年8月のことです。

又、同年同月、学校の設立運営母体であったポートランド日本人商社会が、オレゴン州法による非営利法人として認可されたことも特筆されねばならないでしょう。

次号に続く

《創立20周年記念文集わかばより》